

イアンサ . S . ライズリー RI会長テーマ
 「ロータリー：変化をもたらす」
 2820地区スローガン
 「未来へチャレンジ」



2017~2018年度
 会長 大山 岳夫
 幹事 加部東孝浩



前回の例会報告

第2152回例会 10月26日(木)

於・例会場 PM 0:30~1:30

- 点鐘 大山会長
- ロータリーソング “われらの生業” 斉唱
- 出席報告 関根委員長

日付	出席	欠席	メーク	出席率	天気
10月19日	24	3	1	89.28 %	雨

○委員会報告
 ★米山奨学委員会 大内委員長
 加部東会員、櫻井会員、海野会員より¥20,000の特別寄付をお預かりしました。ありがとうございました。みなさまご協力よろしくお願いします。

○幹事報告 加部東幹事
 ・幹事メモの報告

○会長の時間 大山会長
 来週(11月2日(木))はいよいよ「ガバナー公式訪問」です。長い1日になりますが、会員の皆様よろしくお願いいたします。また11月は「ロータリー財団月間」です。櫻井委員長よろしくお願いいたします。

○卓話 鏡淵会員
 今回は日本やアメリカを中心とした今後の経済や県内の経済情勢等についてお話ししようと考えていました。ただ、このところの株価の異常な上昇をみてやめることにしました。私は職業から経済に関する講演会に向いたりよくテレビ番組



組を見たりするのですが、ここまで為替と株が連動せず日本の株価上昇を予想した講師や経済評論家がいなかったからです。そこで今回は経済予想は難しいので、間違いないのなものにします。私の勤務する常陽銀行は茨城県知事から「がん検診推進サポーター」に任命されています。そこで最近のがんについてお話ししようと思います。ただ、私はあまり詳しくないのでアフラックから小峰さんと横瀬さん二人を呼ん

でおります。では、お二人よろしくお祈りします。
 「がんを知る」セミナー 正しく知ってほしい、がんのことはがんは身近な病気、日本人の死因の第1位となっています。



平成23年度の人口動態統計によると、年間1,253,066人の全死亡者のうち357,305人ががんで亡くなっています。50歳代ごろから増加し、

高齢になるほど罹患する確率が高くなってきます。また、50歳代前半までは女性の罹患する確率が男性よりやや高くなっています。障害で国民の2人に1人ががんにかかり、将来は3人に2人ががんにかかる時代が来るとも予測されています。しかし早期発見によりがんは治すことができる病気になりました。全がんの5年生存率は65.7%となっています。がんの特徴は腫瘍細胞が周囲の組織との境界を破壊していく浸潤と腫瘍細胞が最初のところから血管やリンパ管を通して体内の異なる場所に移って、そこで増殖する転移があげられます。またがんを引き起こす危険因子として、たばこ、塩分、脂肪分のとりすぎ、アルコールの取りすぎといった食事、肝炎ウイルスやヒトパピローマウイルスなどのウィルスがあげられます。男性のがん部位別の傾向は、罹患割合では順に、胃、肺、大腸、前立腺の順で、死亡割合は、肺、胃、大腸、肝臓の順になっています。女性の罹患割合は乳房、大腸、胃、肺の順で、死亡割合は、大腸、肺、胃、脾臓の順となっています。肺がんの大きな危険因子は喫煙で、罹患率、死亡率ともに男性の方が女性より高く(3~4倍)、また、死亡率も高くなっています。胃がんの危険因子は食塩・高塩分食品の摂取、喫煙で、最近ではヘリコバクターピロリ菌の関係が指摘され、早期であればほとんど治癒する疾患となってきています。がんの3大治療は、がんとまわりのリンパ節を切り取る外科療法(手術)、抗がん剤、ホルモン剤などの薬を使う化学療法、放射線を照射する放射線療法です。平成23年患者調査によると入院治療が減って、通院治療が増加しています。また、陽子線治療や重粒子線治療などの一般の保険診療で認められている医療水準を超えた最新の先進技術として厚生労働大臣

から定められた先進医療は、全額自己負担になっています。陽子線治療の平均費用は 2,580,185 円、重粒子線治療の平均費用は 2,990,141 円かかります。

がんにかかったときの負担として、がん診断による落ち込み、再発・転移への不安といった精神的負担があげられます。がんは早期に発見、早期に治療した方が生存率は高くなり、ステージⅠ期では 91.4%、ステージⅡ期では 80.7%、ステージⅢ期では 48.0%、ステージⅣ期では 18.1%となっています。早期発見のために受診が勧められているがん検診は、胸部 X 線、喀痰細胞診、胃 X 線、便潜血検査、マンモグラフィ、細胞診があります。現状にお



再発・転移への不安といった精神的負担があげられます。がんは早期に発見、早期に治療した方が生存率は高くなり、ステージⅠ期では 91.4%、ステージⅡ期では 80.7%、ステージⅢ期では 48.0%、ステージⅣ期では 18.1%となっています。早期発見のために受診が勧められているがん検診は、胸部 X 線、喀痰細胞診、胃 X 線、便潜血検査、マンモグラフィ、細胞診があります。現状にお

いて日本人に推奨できるがん予防法は、タバコは吸わない、他人の煙を可能な限り避けること、適度な飲酒（1日あたりアルコール量に換算して約 23 グラム以内、飲まない人、飲めない人は無理に飲まない）、食事は偏らずバランスよくすること（塩蔵食品、食塩の摂取は最小限、具体的には 1日あたり男性 9g、女性 7.5g 未満、特に塩分濃度が 10%程度の高塩分食品は週に 1 回以内、野菜、果物不足にならない、野菜は毎食、果物は毎日食べて、少なくとも 1日 400g とる、熱い飲食物、保存・加工肉の摂取は控えめに）、定期的な運動の継続（例えば、ほぼ毎日合計 60 分程度の歩行など適度な運動、週に 1 回程度は汗をかくような運動をする）、成人期での体重を維持すること（太りすぎない、やせすぎない、中年期男性の BMI で 27 を越さない、21 を下回らない、中年期女性では 25 を越さない、19 を下回らない）、肝炎ウィルス感染の有無を知り、感染している場合は、その治療の措置をとること。地域の保健所や医療機関で、一度は肝炎ウィルスの検査を受けることです。がんは「早期発見・早期治療」をすれば怖い病気ではありません。正しい情報と予備知識を持って、がん予防に努め充実した日々を送りましょう。

次回例会 第2154回例会 11月9日（木）12：30～ 於：例会場

卓話「ロータリー財団委員会」

今月のロータリーレート \$1=¥114

今月はロータリー財団月間です。今週は世界インターアクト週間です。

PhotoGallery



【京都の秋】 大山岳夫会員撮影

四つのテスト 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか
会報委員会 土山 大輔 海老澤 一夫 土子 吉久